**富田林市文化芸術振興ビジョン策定委員会　第１回の振り返り**

資料２

１．富田林市の文化芸術の特徴

・文化が豊富にあるまちであると実感している。寺内町に行った際に、芸術に携わる多様な作家と関わる機会があり、面白いまちに来たと第一印象を得た。改めて、SNSで見ると、富田林市内に様々な作家が集まっていることを知った。

・自身の出身は奈良であるが、富田林市は奈良と似ている様に感じる。富田林に住んでいるが、大阪府内の他の自治体のように「せかせか」していると感じたことは無い。自然が豊富でゆったりしている。寺内町も奈良と似ている。

２．文化芸術の鑑賞・活動の場

（１）すばるホール

・活動は活発に行われているが、知名度が低い様に感じた。認知度の低さに危機感を再認識した。市民が中心となって活動する拠点としてすばるホールを活発に育てていきたい。

・コロナ禍では、座席に余白が必要となり、イベントも打ちにくい。採算ベース重視では市民に本物の芸術文化を届けることが難しい。共催やプロモーターと一緒に良いイベントを担っていきたい。

・知名度の低さについて、予算や人手の余裕があれば、過去に実施したイベントをまとめた冊子を作るべきではないかとの意見もあるが、業務量の負担が大きく、難しい。

・現在、月2回程すばるホール周辺の花や植栽を市民ボランティア（六連花（むつらばな））に行ってもらっている。

・すばるホールはホール内レストランの食事の改善に努めた方がいい。演劇や音楽会等も魅力であるが、美味しい「食事」を摂ることもすばるホールの魅力になればいい。

（２）公民館

・富田林市の文化はすばるホールのみが担っている訳ではなく、公民館活動も活発に実践されていて、全国的にも評価が高い。富田林市内にある３つの公民館内にはクラブ活動がそれぞれ約５０団体ある。自分の地元で文化活動が実施されているこの状態が富田林市の文化の基礎を作っていると考える。

３．参加から協働の流れ

（１）市民参加（参画）

市民参画の狙いは市民の豊かな生活である。市民が参画することで精神的に豊かになっているのか、また市民の心情にどのような変化があるかなどを参加前後でアンケート調査を実施する等によってデータ蓄積及び分析し、市民参画の意味を明確に示す必要がある。

・若者会議に参加してみて取組をゼロスタートで作り上げていく経験はとても有意義であった。このような経験で自分がどう生きたいかといった、所謂ウェルビーイングのようなことを知るきっかけになった。

・興味があっても初めの一歩を自分一人で踏み出すのは大変難しい。学校単位での募集や友達の紹介があれば参加しやすい。誰か信頼できる人が後押してくれたりなどのきっかけがあれば参加しやすい。

・いきなり市民参加を進めることは難しい。

（２）市民協働

参加型で実施している教室展などでは、企画者が楽しむことを目的に実施することが多く、施設と何か作っていくといった行動に繋がっていない。市が主催する絵を飾るイベントに参加したこともあったが、話し合いの場はなかった。絵は音楽や芸能に比べて個の要素が強く、参画や協働の方向に持っていくことが難しいのかもしれないが、できれば面白い。

・参加の場を一緒に作っていくことでどのような変化を促したいかを考えることが大切である。

・鑑賞型→参加型→協働型の流れについて、文化芸術のみではなく市民活動の中でも同じように視点が変わっている。富田林市にも市民協働課ができた。市が参加型を企画した際に、市民がボランティアで参加するといったことは増えてきたが、平場での協働はまだ難しい。一部生まれているところもあるが、文化芸術や市民活動に関わらず、様々な面において、富田林市ではまだ薄い様に感じる。

・鑑賞型→参加型→協働型の流れについて、観光も全く同じである。例えば、寺内町に遊びに来たという経験は参加型に値し、寺内町がまちの人間だけでは維持が困難となった場合に、外部の応援を取り入れる動きは協働型に値する。外部の視点を入れることで、内部の文化芸術が啓発され、市民の品格が高められるといった流れができないか。

・どのジャンルにおいても、「協働」がキーワードになる。

４．施策ニーズ

（１）情報発信

・ベルリンに人が集まる理由をあるアーティストに尋ねた際、「何か考えたい人が集まる、それが広場であり劇場である、それは古代ギリシャから変わらない」との返事に感銘を受けたことがある。文化芸術を提供する側の人間は企画段階から主旨（意志）を共有、連携して作品を作り上げる。芸術家は芸術を信じる力が強く、そのような人に人が集まって来る。芸術を発信するにおいて、人を集めることからスタートするのではなく、その芸術の素晴らしさを伝えることができる場が必要である。

・伝える手段としては、SNSでの情報発信でも若者に届けばいいと思う。「いきなり芸術だ！」と言わず、その人自身を知ってもらった後で芸術を知ってもらってもいい。

・生涯学習課でウェブサイトを立ち上げて「文化の広場（文化の窓口）」なるものを作成し、興味がある人に目が留まり、気楽にアクセスできる環境を整備してみてはどうか。

（２）芸術教育

・文化を学校教育の中に入れることで、思いやりや感情などを教える生涯学習の機会を入れて欲しい。

（３）文化芸術のアーカイブ

・個々では優秀な方が多いが、個々で活動するが故に活動や情報が発散してしまっている。未来を築くうえで、歴史を知る機会となる、一箇所に集積された資料館なるものが富田林市にあればいい。